

熊谷・深谷業務核都市基本構想の概要

熊谷・深谷業務核都市基本構想策定の目的

熊谷市及び深谷市は、業務核都市として、首都圏における広域の役割を担うとともに、埼玉県における県北部地域の活性化のための拠点としての役割も期待されています。

そのため、多極分散型国土形成促進法(昭和63年)による支援措置を活用するなど、業務等諸機能の立地促進を図るため、「基本構想」を策定したものです。

基本構想の概要

- 1 構 想 名 熊谷・深谷業務核都市基本構想
- 2 業務核都市の名称 「熊谷・深谷業務核都市」
- 3 範 囲 熊谷市、深谷市の2市 総面積 約15,458ha

4 整備の基本的方向

(1) 将来像

首都圏におけるネットワークの構築が進められている中で、両市が一体となり、首都圏における熊谷・深谷地域の自立性を維持・強化するため、これまで蓄積してきた資源を基盤として、豊かな自然環境の中で職住近接と多様なライフスタイルを実現する。それにより地域の文化創造力、情報発信力、産業創造力の源泉となる人材が集まり、住まう「自然につつまれた人と産業を育む都市」を目指す。

(2) 計画フレーム(平成27年)

- ・定住人口：約30万人
- ・従業地就業者数：約15万人(就従比：1.0)

5 整備の方針

(1) 機能の整備方針

熊谷市では、熊谷駅周辺地区において、起業促進・産業支援機能を核にした業務機能の集積を目指すとともに、商業機能の高度化及び産業・文化等における交流機能の充実を図る。

深谷市では、深谷駅周辺地区において、業務機能、生活支援機能の導入及び商業機能の充実を図る。両地区が連携しつつ、北部複合都市圏の広域における交流拠点としての役割を果たす。

(2) 広域交通体系の整備

地域高規格道路熊谷渋川連絡道路の整備推進及び一般国道17号上武道路、同深谷バイパスの拡幅や同熊谷バイパスの柿沼肥塚立体交差化など交通機能の強化のほか、鉄軌道及びバスの充実を図る。

6 業務施設集積地区と中核的施設等

業務施設集積地区	市町村名	面積	中核的施設	地区整備の主な目的
熊谷駅周辺地区	熊谷市	約 123ha	テクノグリーンセンター	・業務、商業の集積 ・魅力ある都市景観形成 ・都市型居住機能の整備 ・広域交流拠点の形成
			熊谷駅東地区再開発ビル	
			熊谷駅東口駅前広場	
			熊谷駅正面口駅前広場	
			熊谷駅南口駅前広場	
熊谷市営本町駐車場				
深谷駅周辺地区	深谷市	約 35ha	生活支援複合施設	・業務、商業、生活支援機能の強化 ・広域交流拠点の形成
			(仮)街かど広場	

7 配慮事項等

業務核都市の整備の推進上不可欠である公共施設等の整備を図るとともに、環境の保全、適正かつ合理的な土地利用、業務機能と居住機能の調和等に配慮する。